地質ニュース672号，44－47頁，2010年8月
Chishitsu News no.672, p.44－47, August, 2010

地質情報展2009おかやまにおける地元研究機関との連携

中島　礼[1)]・高橋　裕平[2)]・植木　岳雪[1)]

地質情報展2009おかやまにおいて，これまでにない新しい企画がいくつかなされました．その中で最も大きな試みは，地元岡山県や香川県の研究機関との連携でした．これまでの地質情報展でも地元の博物館や大学などにはご協力いただいていましたが，今回のように多くの機関，また多分野の機関に協力を依頼したことはありませんでした．また，今回は岡山県だけでなく，瀬戸内海を挟んだ香川県も地質情報展の対象地域として目を向けたことから，今回の広い連携ができることとなりました．

岡山県には自然史系の県立博物館はありませんが，県内の自治体には自然史系の展示を備えた博物館や資料館がいくつかあります．それらのうち，倉敷市にある倉敷市立自然史博物館に地質情報展への出展協力を依頼しました．この博物館における瀬戸内海産ゾウ化石の収蔵量は日本でも有数のものとして知られています．この地域はゾウ化石だけでなく，三畳紀の植物化石や新第三紀の貝化石も有名です（武智，2010）．そのため，今回は瀬戸内海産の最終氷期のナウマンゾウ化石と三畳紀の植物化石の展示をお願いしました（写真1）．

写真1　倉敷市立自然史博物館によるナウマンゾウ化石の展示．

県内の企業である林原グループには，林原自然科学博物館という古生物に特化した博物館があります．この博物館はモンゴルにおける恐竜化石の研究で知られており，アウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる機関です．そこで，この博物館にも展示協力と地質情報展への共催を依頼しました．林原自然科学博物館からは展示の解説者も数名参加していただき，広いスペースを使った「追跡！ 恐竜の足あと」と題した展示をしていただきました．この展示では，壁面に貼られたあるいは床に大きく敷かれた恐竜の足跡が印刷されたシートをまず観察し，恐竜の大きさや歩いた速度，集団行動の様子を参加者に体験しながら考えてもらいました（写真2）．林原自然科学博物館から来ていただいた解説者の皆さんには，恐竜の研究者が発掘現場でどのような視点で化石を観察し，そこからどのように科学的推測を行っているのかを理解してもらうという目的を持って展示解説をしていただいたようです．もちろん体験学習のほかにも，大型肉食恐竜の頭骨レプリカや足跡化石など様々な化石標本の展示もしていただきました（写真3）．いつの時代も子供たちに大人気の恐竜ですから，常に多くの子供たちが自分と恐竜の足跡の大きさを比較するなど活発に動き回っていました．

今回の情報展の特色として，考古学分野の機関からの出展があげられます．まず，岡山県古代吉備文化財センターの，“たたら”遺物の展示です（写真4）．

1）産総研 地質情報研究部門
2）産総研 地質調査情報センター

キーワード：地質情報展，岡山県，香川県，博物館，教育機関，企業，考古学，講演会

写真2　林原自然科学博物館による恐竜の足跡展示．恐竜の歩幅を実感してもらいました．

写真3　ティラノサウルスの頭骨の展示．

写真4　岡山県古代吉備文化財センターによるたたら吹製鉄の遺物とパネル展示．

写真5　岡山市埋蔵文化財センターによるサヌカイトの石器展示．

中世の岡山県では，“たたら吹製鉄”と呼ばれる製鉄業が盛んであったことが知られています．良質な砂鉄と豊かな森林の存在により，江戸時代の中国山地ではたたら吹製鉄が盛んに行われ，遺跡の発掘調査により江戸時代のたたら吹製鉄の様子が詳細にわかってきたようです．展示したのは，県内の遺跡から発掘された鉄鉱石，製鉄用の道具，鍛冶用の道具などです．そして，岡山市埋蔵文化財センターによるサヌカイトから作られた石器の出展です（写真5）．サヌカイトとは，通称“かんかん石”と呼ばれる硬質な安山岩で，石同士を叩くと“かんかん”と高い音がする岩石です．この地域では鉄の道具が普及するまで，サヌカイトが先史の人たちにとって道具作りに欠かせない資源だったそうです．ここではサヌカイトで作られた道具の歴史を通して，人の社会や文化がどのように移り変わったのかという内容の展示をしてもらいました．

中国地質調査業協会岡山県支部には，岡山県の地盤図の紹介をしていただきました（写真6）．この紹介は，実際の地図とパソコンを使ったデモとなりました．香川県の（株）豊和開発には，サヌカイトの楽器や風鈴に触る体験展示をしていただきました（写真7）．サヌカイトは硬質な岩石のため，楽器としても加工されています．後述しますが，サヌカイトを用いたプロの演奏家もいるのです．この体験コーナーは子供たちに大人気で，情報展の開催中はこの楽器を鳴らす音

写真6　中国地質調査業協会岡山県支部による岡山県地盤図のデモの様子.

写真7　豊和開発（株）によるサヌカイトを加工して作った楽器の展示.

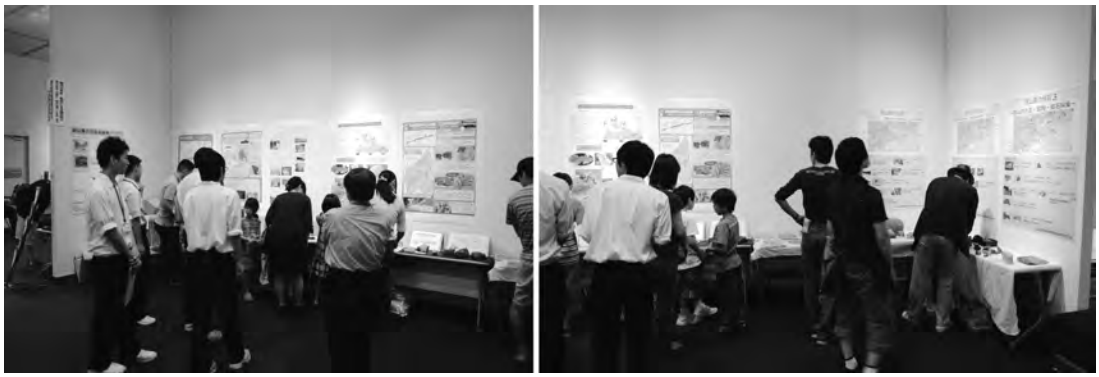

写真8　岡山県と香川県の高校生，大学生，教員による地元の地質紹介.

が会場に絶えず響いていました.

以上の研究機関や企業だけでなく，高校生や教員による地元の地質紹介の展示もしていただきました. 岡山大学教育学部の3年生，岡山県高教研理科部会地学分科会の教員，香川県の観音寺第一高校，高松工芸高校，丸亀高校，高松桜井高校，高松高校の自然科学系クラブの皆さんに参加していただきました（写真8）. 香川県の高校生たちは毎日瀬戸内海をフェリーで通ってきていたそうです. 多くの高校生たちが展示パネルの前に立ち，参加者たちに丁寧に解説をしていました. 彼らの熱意に参加者たちも引き込まれ，展示には多くの人が集まっていました. 研究者との交流もあったようで，お互いよい経験になったものと思われます.

地質情報展の会場には，講義室が隣接しており，この会場も活用しようと9月5日と6日にミニ講演会とサヌカイト楽器の演奏会を企画しました. 5日の午前中には，岡山市埋蔵文化財センターの西田和浩さんに「人間社会を支えたサヌカイト」，岡山県古代吉備文化財センターの上栫　武さんに「たたらの考古学」，倉敷市立自然史博物館の武智泰史さんには「岡山県の化石について−化石でたどる岡山県の地史」と題して講演していただきました. この講演会は日本地質学会の主催となりました. 6日には，（株）荒谷建設コンサルタントの加藤弘徳さんによる「ジオ鉄〜自然を楽しむ鉄道旅行のすすめ」（写真9），産総研関西センターの寒川　旭さんによる「寒川なまず博士の地震と活断層の話」（写真10），そして，プロの打楽器奏者によるサヌカイトでできた楽器の演奏会（写真11）が行われました. 講演会と演奏会にはともに多くの方が参加してくださり，とくに演奏会は毎回立ち見が出るほど盛況なものとなりました. 岩石であるサヌカイトを打楽器に加工したものなのですが，とてもか細い音から大きく響く音という幅広い音に驚きました. そして，次第

写真9　加藤弘徳さんによる「ジオ鉄」の講演.

写真11　サヌカイト楽器による演奏会の様子.

写真10　寒川　旭さんによる地震考古学の講演.

に神秘的な演奏の中に取り込まれてしまいました.

今回の地質情報展はここ数年の中で最も参加人数が多かったそうです(吉田, 2010). これも多くの外部機関や岡山市デジタルミュージアム, 産総研職員の皆様のご協力があってこそのものです. ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます.

文　献

武智泰史(2010):岡山県の化石について−化石でたどる岡山県の歴史−. 地質ニュース, 666号, 48-52.

吉田朋弘(2010):地質情報展2009おかやま「ワクワク・発見　瀬戸の大地」開催報告, 地質ニュース, 672号, 10-17.

NAKASHIMA Rei, TAKAHASHI Yuhei and UEKI Takeyuki
(2010): A cooperation with research institutes in Okayama and Kagawa Prefectures in Geoscience Exhibition in Okayama.

＜受付:2010年3月12日＞